

今回は、脱炭素化の状況についてお伝えします。(各種新聞記事より)

脱炭素化の停滞

国連の気候変動枠組み条約事務局は11月14日、各国が掲げる最新の温室効果ガスの排出削減目標が達成できた場合、世界全体の排出量が2020年代に減少に転じる可能性が高いと分析した報告書を発表しました。一方で、今世紀末の気温上昇を1.5度に抑えるパリ協定の目標に必要な削減量には遠く及ばないと指摘しました。

国連事務総長は「世界は気候危機への対処に失敗しつつある」とコメント。報告書は19年と比べた世界全体の排出量は30年には2%減と予測したが、国連の気候変動に関する政府間パネルは30年の排出量を43%減にする必要があるとしています。今月末から始まる国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議(COP28)は世界の対策の進捗評価が主要議題となる予定で、今回の報告書などが議論に反映される見込みです。

今回の報告書は、現状の各国の削減目標なら気温は2.1~2.8度上がると分析しており、世界の脱炭素化が思うように進んでいない現状を示しています。

世界の気温が産業革命前に比べて2度上昇すると、今世紀半ばに暑さに関連する年間死亡者数は近年の4.7倍に増えるとする報告書を、世界保健機関(WHO)などの国際研究チームが15日、医学誌ランセットに発表しました。温室効果ガスの迅速な排出削減で気温上昇を抑えなければ、人類の健康が深刻な危機に陥ると警告しています。暑さによる直接的な影響や渇水、食料不足への影響も懸念されます。気候変動による健康への影響を改めて認識する必要があります。

電気自動車(EV)需要に陰りも

テスラを始め、フォード、GMといった自動車株が下落しています。脱炭素化に有益であるEV需要に陰りが見えるとして、各社に急ピッチで拡大してきたEV投資を見直す動きが広がっています。ブルームバーグによると、テスラはメキシコに10億ドル規模の工場を新設する計画を先送りする可能性があるとして述べたほか、GMはこれまでデトロイト郊外の工場に電動ピックアップトラックの生産を拡大する計画を延期しました。

また、フォードはすでにEV関連の投資計画150億ドルのうち、120億ドルを延期すると発表済み。また、ケンタッキー州で予定していた韓国SKオンとの第2バッテリー工場共同建設を延期すると発表しました。

同じ車種でもEVとガソリン車では価格が1.3倍から1.5倍違うことやインフレと金利上昇で、一般消費者が自動車を購入することは困難になっており、EVメーカーを取り巻く環境が悪化していることをうかがわせます。

ヨーロッパでも、2023年までEVの市場は確かに順調に拡大してきましたが、消費者へのインセンティブの縮小、充電ポイントの整備遅れ、さらに廉価なEVの供給の遅れが続けば、EVの普及が「踊り場」に差し掛かるのではとの見方も出ているようです。

個人ができる脱炭素化のアクション

脱炭素化のための具体的なアクションはいくつかありますが、以下はその一部です。

エネルギーの効率的な使用 : 家庭や職場でのエネルギー使用を見直し、節電を心がけることが重要です。具体的には、LED電球の利用、電化製品のスタンバイモードを避ける、断熱材の導入などが挙げられます。

持続可能な交通手段の利用 : 自動車の利用を減らし、公共の交通機関を活用するか、自転車や歩行などの持続可能な交通手段を選択することや、PHEV・ハイブリッド車などの低燃費車への乗り換え検討も有益です。

再生可能エネルギーの利用 : 自宅や職場に太陽光発電パネルを設置するなど、再生可能エネルギーの導入を検討することで化石燃料に依存しないエネルギーを得ることができます。

これらのアクションは、単独では大規模な変化をもたらすことは難しいかも知れませんが、多くの人々が協力して実践し積み重ねることで、大きな影響を持つ可能性があると考えます。